

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570706671		
法人名	特定非営利活動法人 エヌピーオー社会福祉事業振興会		
事業所名	グループホームすずらん湯沢		
所在地	秋田県湯沢市元清水二丁目5番20号		
自己評価作成日	令和3年1月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和3年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者さん一人ひとりのニーズに向き合い、その方らしさを大切にできるような寄り添った支援に努めている。家族に対しても、信頼関係を深められるよう努めている。 ・入居者さんそれぞれの思い、訴えを傾聴し、職員ではなく利用者さん優先で過ごせるよう支援している。 ・利用者さんに親身になる。 ・手作りの漬物や正月料理がおいしい。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設当初から比較すると周辺に住宅が増えたことで地域交流に積極的に取り組み、野菜の差し入れや声をかけていただくことも多く、ホームの行事を地域の方々と共に楽しむまでになり、感染症の終息が待たれるところです。コロナ禍によって利用者は外出を控えており、ストレスを感じている利用者も中にはいるようですが、ホーム内でできることを増やし、利用者を楽しんでいただける工夫をしています。経験の長い職員が多く在籍しており、連携を図ることで利用者の思いを理解して関わることができ、夜に行っていたミーティングを昼の時間帯に毎日行うことで職員の時間的拘束を減らし、更にその効果を上げています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に基づき、事業所年間目標を全員で決め、さらに個人目標を立てています。定期的に管理者と面談を交わし、確認し合っています。	年間目標を設定して具体的な支援に繋げていく取り組みをしています。個人目標については3ヶ月毎に管理者と面談して振り返りの機会としています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の避難訓練に、利用者と一緒に参加したり、季節ごとに町内の方が、野菜を届けて下さったりしています。ここ1年は行けていませんが、買い物や図書館などにも出かけ、挨拶を交わしています。	コロナ禍で利用者が地域の方と顔を合わせる機会が断たれていますが、職員はこれまでと同様の交流があり、感染症が終息したらホームの行事も再開したいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	避難訓練に参加いただき、車椅子や段差の誘導の仕方、認知症の方への声掛けなど理解頂けるようお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	内部の近況報告を行い意見を頂いています。困っていることなども、個人情報を守りながらお伝えし、いざというときに慌てず協力が頂けるようお願いしています。	現在は資料で状況報告し、意見を募っていません。対面で開催される会議では、それぞれの立場から出された意見をサービスの向上に繋げています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアサービスにおいてはケースごとに相談し、助言を頂いています。この1年は、感染対策から面会、会議の開催において、相談しながら進めています。	行政からはメールで連絡がある他、各種の手続きに窓口に出向いたり電話で相談に対応していただく等、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センサー使用については、毎日カンファレンスを行い必要性を確認しています。ご本人の状態や、意向に添ったケアをすることで、危険回避に努めています。玄関の施錠は、まれに興奮状態にあり危険と判断した場合一時的に活用しています。	職員は事例を基に正しい理解に努めており、利用者の状況を確認しながら対応を検討しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてやメンタルケアなどの研修の参加を推奨、スタッフ同士言葉づかいから始まる意識で取り組んでいます。この一年は、内部研修を行い意識向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加や、内部研修のテーマにあげるなど、制度の理解に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間を取り、不安のないよう説明、意思疎通を図っています。その後も折に触れ、不備がないか、聞きたいことはないか、さりげなく確認をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月お出ししている報告書が一方通行にならぬよう、支払いなどで定期的にお越しの際、ケア方針の確認の中で、お気持ちを引き出し、すり合わせに努めています。	家族からの苦情等はないようですが、感染症の影響や利用者の状態の変化に伴って電話で話す機会が増え、また、支払いに訪れた際にも要望を引き出せるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや、定期的な個人面談に向け、事前にテーマを伝えて意見を求めるなどとしています。	毎日ミーティングを行って情報を共有し、より良いケアに繋げている他、ワークスタイルの変更やコロナ禍における環境整備等、代表は職員の意見に速やかに応えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の中で物理的に解決できるものは、早期に対応できるよう意見を求め実践しています。スタッフ個々の生活に合わせたシフト作りをし、全体がお互いさま意識をもって働いています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤続年数に合った研修を平均的に行えるよう調整しています。各資格取得に対して、2回目までは受験にかかる費用の一切が支給されます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームのネットワークがあり、2か月に1回のペースで会議を行い、情報交換しています。ここ1年は、ネットワークのグループLINEを活用し、連絡を取り合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくり穏やかに、平常心に、その時の状態に合わせた言葉かけや、振る舞いに気をつけて傾聴する姿勢を大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談や契約時に聞き取るだけでなく、後にゆっくり振り返ってみて気がついたことなどなかったか、時間をおいて確認するなど、機会あるごとに話しやすい雰囲気を心掛けています。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	身体的、精神的に不安な部分を支え、個々に得意な分野では活躍の場面を設けています。料理や裁縫、掃除など生活の中で知恵を借り、協力して暮らしている関係を大切にしています。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の生活リズムに合わせて、無理なく行き来ができるよう電話や面会に制限を設けず対応しています。この一年は感染対策のため制限せざるを得ませんでした。家族の話題に意識して触れ、関係が遠のくことがないよう努めています。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	この1年は、同級会の中止やあえてお知らせしなかった旨をお話下さるなど、実現はしないものの、落ち着いたらきつとといった連絡はとれています。	現状を受け入れている利用者もおりますが、感染防止のため家族や知人との交流、馴染みの場所への外出がままならない状況であり、感染症の終息を待って再開できることを待っていただいています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や共通点をそれぞれ理解し、普段から様子を見て過ごしやすい配置や環境作りを意識しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者さんの今後について、不安な部分に対しての傾聴や、情報提供は契約が終了しても変わらず続けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の経てきた生活や好み、性格を把握し、自然なままその方らしく過ごして頂くことを第一に考え検討しています。	言葉で上手く伝えることができない利用者も多くなってきていますが、職員の普段の関わりの中でその思いを感じ取り、職員間の連携を図りながら現状に応じた生活ができるよう取り組んでいます。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの物や好きなもの、得意なことを生活の中に取り入れ、充実を図っています。四季を通じて、家族へ寝具や枕の方向、扉の位置など、自宅自室での動線を確認したりと、落ち着ける環境づくりを目指しています。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムシート、管理日誌、ミーティング等で情報共有を図り、心身の状態に早期対応できるよう努めています。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が毎月のモニタリングに向けてスタッフ全員から情報収集を経てからミーティングで経過の確認と新たな課題について話し合います。意見やアイデアについては、家族へ計画書のみならず、月間報告等で早めに説明をしています。	担当職員が他の職員の意見を聞き、時間をかけてモニタリングを行うことで現状を丁寧に把握し、その後ミーティングを行い、家族の意向も確認して介護計画を作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細なことでも記録に残し、情報を繋げることで次のケアに活かしています。申し送りだけでなく、口頭で話すことでより伝わる情報共有に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ渦で利用控え、ここ1年はほとんど外出していませんが、好きな本を借りて図書館へ行ったり、消耗品も自分で選んだり、以前から通っていた店へは継続して出かけたと思っています。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から、ご自身が信頼されているかかりつけ医へ、個々に継続で通院しています。定期受診以外にも、状態をお伝えし、早めの相談対応をしています。	入居前からのかかりつけ医で受診しており、訪問歯科診療を受けている方もおります。感染症発生以前は家族介助の方がおりましたが、現在は職員が対応し、家族に受診報告しています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在訪問看護の利用はありません。受診時には医師だけでなく、看護師にも相談しアドバイスを頂いています。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員交代で、可能な限り面会へ行き、関係性を継続できるよう努めています。担当の退院支援看護師と連絡を取り合い、退院に向けて連携をとっています。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族へのアンケートから始まり、段階的にお気持ちを確認しながら、話し合っています。状況をお伝えする際、遠方の家族にはなかなか現実が伝わらないこともふまえて、お気持ちの準備ができるまで、何度も話し合うようにしています。	ホームでの看取りに対応していないことを入居時に説明し、状態変化に応じて再度説明しています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハット、事故報告については、次の日にはカンファレンスを行い、対策の検討、情報共有を行っています。年に1回消防署による救命講習を、職員、利用者全員で受講しています。(R2年は受講なし)		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定、水害想定、地震想定避難マニュアルを作成。火災については年2回、消防署、地域の方と一緒に避難訓練を行っています。外へ避難した後の協力体制について、推進会議等で協力をお願いをしています。	近隣との新たな協力体制について話し合う等、運営推進会議でも対策を協議しており、避難訓練実施後の職員の反省を今後活かせるように取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	見守りや様子を見ていく中でも、踏み込み過ぎぬよう、離れるときは離れて見守ります。トイレは小声で誘ったり、排せつについてもお気持ちをくんだ上で、必要な介助のみを行うよう努めています。	利用者のできる力が活かせるよう配慮し、さりげない介助を心がけています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 あ	入浴時一緒に衣服を選んだり、お茶の際、メニューを見て好きな飲み物を選んで頂いたりしています。表情やしぐさからお気持ちをくみ取り、働きかけるよう努めています。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ一人ひとりのペースや価値観を大切に支援しています。その日その時によって、平等にいかない場合は、優先順位を考えてバランスよく対応するよう努めています。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗顔、整容を自分好みで行えるよう配慮、季節にそぐわない恰好をしていた時はさりげなくお声掛けし、一緒に選びなおしに納得がいくよう支援しています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ渦で行けていませんが、食材の買い物に同行したり、その方の負担や苦痛にならないよう配慮しながら、一緒に食事の準備、片付けをしています。家庭菜園で実った野菜の収穫も、利用者自身に行ってもらえるよう支援しています。	近所の方の差し入れや家庭菜園の野菜を食卓にあげ、季節の食事を提供しています。外食を自粛していることから、職員も利用者も共にゆっくり取り組める時を選び、お菓子作りを楽しんでいます。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重変化を考慮し、食べ過ぎたり少な過ぎたりしないよう、ご本人にとっての適量を探り、バランスを考えた提供に努めています。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態に合ったブラシを使い、なるべく自身で行なっていたきながら、仕上げの確認として一緒に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握と、様子をよく見てタイミングを伺って誘導を行うことで、失禁を減らし、気持ちよく排泄できるよう努めています。	個々の排泄パターンに応じた支援が行われています。排泄用品の使用や誘導を適切に行い、失敗の軽減に努めています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の状態、間隔を生活リズムシート等で確認しながら、食事の形態や水分量に注意しています。歩行運動や、腹部マッサージを日常的にさりげなく行っています。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に入りたい曜日に配慮し予定を組み、気がのらない時は無理せず変更しています。音や物の配置、お湯の温度に気をつけ、最終的に気持ちよかったという印象で伝えられるよう努めています。	週2回を基本としてはいますが、共用デイサービスの利用者を受け入れていることから柔軟に対応しています。拒否される方には経験豊富な職員が声かけのタイミングを心得ており、スムーズな入浴に繋げています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースで休息ができるよう、場所の提供や誘導を行い、音への配慮や季節に合った寝具で環境を整えています。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や追加、それによる副作用などは、ミーティングや管理日誌の変更覧で速やかに周知し、開始後の状態確認に努めています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなこと、得意なことを理解し、普段から様子をよく見て、さらに新しい楽しみを見出そうとしています。その楽しみごとがご本人にとって穏やかな生活に繋がるよう支援しています。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	この1年はほとんど実現していませんが、体制は整えられる環境、関係であるよう努めています。	コロナ禍で外出を制限しているため、通院以外はそれぞれの希望に沿えない状況が続いていますが、家庭菜園で作業することで気分転換を図ることができるよう取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で財布を管理され安心感を持っていただいている方や、こちらで預り金があることをその都度伝え安心しておられる方など、個々に合わせ、買い物や、お年玉をあげたいなどの要望に対応しています。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時間制限などは設けず、要望に応じて随時対応しています。利用者自身が出す年賀状は、職員と一緒に仕上げて毎年続け、ご家族からもお返事が届いています。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	歩行に支障がないように安全面に配慮、空気清浄器や消臭スプレーの使用で不快に対応しています。クリスマスや正月など季節ごとの装飾を、利用者で行い楽しんでいます。	既存の建物を改修したホームであることから、畳スペースやソファの配置等、居場所づくりを工夫しています。また、玄関内に手洗いコーナーと面会スペースにパーテーションを設置し、利用者への感染防止と安全確保に努めています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話題は皆で楽しめるよう、耳の遠い方への配慮を忘れず会話しています。一人ひとりの相性に合わせた居場所の提供を心掛けていますが、日によって折り合いが悪い時も、移動できるスペースをいくつか考えながら過ごしています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室は馴染みの物や家族の写真などを置き、自身で管理されている方の居室は、勝手に掃除したり配置が変わらないよう注意しています。各居室に設置の、温湿度計を確認し空調を整えています。	室内の構造に違いはありますが、使い慣れた家具等を配置し、利用者それぞれの思いに沿った生活の場となるよう配慮しています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	花を育てる、歌をうたうなど、個々に「できること」を取り入れ生活に繋げています。継続が難しくなってきた場合でも、別のできることを探り、生活につながるよう努めています。		